

広島県における今後の高等学校教育の在り方を検討する協議会 中間まとめ（概要）

はじめに

広島県における今後の高等学校教育の在り方について、「本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方」、「本県における今後の高等学校の在り方」の2つの事項について明らかにするよう諮問を受けた。

これまでの6回の会議において、協議を行った内容をここにに取りまとめ、中間まとめとして報告する。

I 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について

1 検討に当たって

(1) 広島県の特徴など

広島県は、豊かな自然、西日本有数の産業集積地、国際都市としての潜在的な魅力を有している一方で、中山間地域等における過疎化等の課題を抱えている。

こうした状況下において、様々な課題に対応し、社会の持続的な発展に寄与する人材の育成が急務となっている。

(2) 若者、高校生の現状

現在の若者、高校生について、素直である、社会に貢献したい気持ち強い、あるいは情報収集能力が高いなど多くの点で評価できる。

しかし、議論や競争が不得手、他者と協同して課題を解決するのが不得手、あるいは実現したい夢を持っていないなどの課題がある。

なお、高等学校教育の在り方の検討に当たっては、こうした高校生や若者の現状に加え、学校や家庭、地域についての課題を見ていくことが必要である。

2 本県を内外から支える人材

(1) 内側から支える人材

本県産業の発展を支える人材、県民の安心な暮らしを支える人材、豊かな地域づくりに貢献する人材など、「地域」で活躍する人材

(2) 外側から支える人材

グローバル化が進展する中で、主体的に考え行動する力を持ち、県外のみならず、国外において活躍する人材

3 生徒が高等学校で身に付けるべき力

高等学校においては、社会的に自立する上で求められる普遍的な力を卒業までに身に付けさせることが必要であるとともに、生徒個々が夢を実現し、グローバル化した社会で活躍できる力を身に付けることも重要である。

(1) 全ての高校生が身に付けるべき力

知・徳・体のバランスのとれた力（「生きる力」）

(2) （高校生が個々の状況に応じて）社会で活躍できるように身に付けるべき力

生徒個々が夢を実現し、グローバル化した社会で活躍できる力

4 高等学校教育の目指す姿

高等学校教育においては、生徒が将来社会で自立して生活を送ることができるために必要な心身の強さや人間性を養うという観点と生徒の進路希望の実現を図るという観点が重要である。

いずれの観点においても、生徒に夢と学ぶ意欲を持たせ、学びを実践させることにより、成功体験を積み上げるとともに学ぶ意義に気づかせ、さらに学ぶ意欲を強めるという好循環を作り上げることが必要である。

II 本県における今後の高等学校の在り方について

1 今後求められる高等学校

(1) 全ての高校生が身に付けるべき力（コア）を育成する学校

グローバル化の進展や知識基盤社会の到来など、激しく変化していく社会で活躍できる人材を育成するためには、全ての高等学校において、基礎的な学力、思考力、判断力、行動力及び自分以外の他者を受容し共生できる力はもとより、各々の職業で必要とされる基礎的な専門知識や技能などを身に付けさせる必要がある。

また、生徒に学ぶ目的や意義を自覚させるとともに、将来への目的意識を持たせ、将来の夢の実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を育成することが重要である。

(2) 生徒の多様なニーズに対応した特色のある学校

理数系や文化・芸術、スポーツなどの能力を伸ばす、海外へ出て活躍する、あるいはこれから夢や目標を見つけるなど、生徒の多様なニーズに適切に対応するためには、各高等学校が特色ある教育を更に推進することが求められる。

このためには、各高等学校が生徒のどのような力を伸ばすのか、どのような生徒を育成するのかについて明確な目標を持ち、それを実現するための有効な取組を実践することが重要である。

2 求められる高等学校の方向性

(1) 各学科の在り方

ア 普通科

普通科においては、基礎的な教養をしっかりと学びつつ、コースや類型を設けて、科学技術、文化・芸術、スポーツなど特定の分野に特化して学ぶことができる高等学校や、普通科と専門学科が併設され、学科間で連携することにより、多様な学びを提供できる高等学校などについて、検討すべきである。

イ 専門学科

専門学科においては、これまで幅広い分野で産業、社会を支える人材を輩出しており、今後もその役割を果たすことが期待される。

このため、専門学科においては、

- ・専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図る教育を行うこと
- ・それぞれの専門分野だけでなく、他の専門学科との関連にも配慮し、幅広い知識、技術及び技能を身に付けさせる教育を行うこと
- ・ものづくりへの興味と意欲、技能や製品に対する厳しさと自信、飽くなき向上心を身に付けさせる教育を行うこと
- ・職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養にも配慮した教育を行うこと
- ・産業構造の変化、科学技術の進歩などの情勢の変化に対応した教育を行うこと

が重要である。

また、「ものづくり」を学ぶ学科においては、ものを生産製造する知識、技術及び技能を身に付けさせる教育に加え、売れる商品を開発する能力を育成するため、マーケティングに関する基礎的な知識と技術を身に付けさせることも重要である。

ウ 総合学科

総合学科においては、普通教科及び専門教科の多様な科目の中から生徒が主体的に履修したい科目を選択でき、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に応じた学習を可能にするという特質を一層生かせるよう、今後もキャリア教育の充実を図るとともに、系列や設置科目の見直しなどを検討していく必要がある。

(2) 定時制課程・通信制課程

様々な事情や背景を持ちながら定時制・通信制課程に在籍している生徒の可能性を引き出し、能力を伸ばす機能を一層充実させることが求められている。

現在の定時制課程の多くは、全日制課程の高等学校に定時制課程が1学年1学級規模で併置され、

夜間部の設置が多いという状況になっており、こうした状況の改善を検討する必要がある。また、定時制課程と通信制課程を併せ持った高等学校の設置を検討する必要がある。

(3) 中高一貫教育校

県立広島中・高等学校における成果を踏まえ、中山間地域も含め、県内の他の地域から併設型中高一貫教育校の設置を求める声がある。

また、中山間地域において連携型中高一貫教育を実施している学校が一定の成果をあげており、他の地域において、設置を求める動きがある。

これらのことを踏まえ、中高一貫教育校の新たな設置については、県内各地域の実情などを考慮しつつ、これまでの取組や成果を生かしながら、検討する必要がある。

なお、新たな中高一貫教育校の設置の検討に当たっては、次のことを考慮する必要がある。

- ・中高一貫教育の導入時に、国会の附帯決議において、受験エリート校化など、偏差値による学校間格差を助長することのないよう十分配慮することや、中学校の入学者選抜に当たって学力検査を行わないようにし、受験競争の低年齢化を招くことのないよう十分配慮することとされた趣旨を尊重しなければならない。
- ・新たに併設型中高一貫教育校を設置する際には、私学との役割分担や、財政的な事情を考えると、県立広島中・高等学校のように新たに学校をつくるのではなく、既存の高等学校や中学校をベースにして設置することを検討する必要がある。
- ・中山間地域や島嶼部においては、地域の自然や伝統芸能・文化を生かした取組を実施するなど、進学実績のみを重視するのではなく、地域の特色を生かした併設型中高一貫教育校もあってもよい。

(4) その他

本県の抱える課題に対応した様々な人材を育成する観点から、今後の高等学校が果たすべき役割について検討し、その際、海外の大学への進学を目指す学校や職場体験を重視した学校の設置など、従来の高等学校、課程や学科の枠に捉われない高等学校の在り方についても、検討していく必要がある。

3 国・公・私立高等学校の役割

国・公・私立高等学校は、協力又は補完しあいながら、広島県全体の高等学校教育を推進していかなければならない。

また、併せて、本県の高等学校教育の在り方を考えるとき、国・公・私立高等学校は、補い合うとともに、同じ公教育を担うという立場から、互いに切磋琢磨し、広島県全体の教育水準の維持・向上に努めることが求められている。

なお、特色のある学校・学科の中には、生徒のニーズが低いために定員に満たない可能性のある学校・学科があるものの、本県の将来を見据えたときに、社会的なニーズが高いと考えられる学校・学科については、国立又は公立の高等学校において設置することを検討する必要がある。

おわりに

本検討協議会においては、これまでの6回にわたる会議の協議内容を、この度中間まとめとして報告したところである。

今後、「県立高等学校の配置の方向性」について引き続き検討を行い、これまでの協議内容と併せて本県の高等学校教育の在り方について、その方向性を最終報告として取りまとめて参りたい。